

## エクストリームシリーズ 2020 奥多摩大会

### ■優勝チーム コメント

スパモニ探検隊

#### <レース展開>

前半は順調で teamEastWind と激しく競り合ったものの、中盤にメンバーが負傷、カヤックセクションでの思わぬロスタイム発生など、チームとしては苦しい展開となりました。今回の優勝という結果は、それぞれが得意分野で活躍し最後まで諦めずに走り切ったことへのご褒美といえるでしょう。

会場出発時のクロスワードで若干出遅れ、多くのチームの背を追ってのスタートでした。最初の MTB はひたすら登りだったので、体力に任せて他チームを抜き、CP1 の時点で先頭を進む teamEastWind の背中を発見しました。

ラインオリエンテーリング区間ではなかなか出現しない CP、追い抜けない状況にやきもきしつつも、結城の正確な地図読み力でミスなくこなし、御前山のちょうど山頂で追いつきました。CP5 をほぼ同時にとり、いよいよここから、普段オリエンテーリングを専攻する我々のチームにとってこのレース唯一の見せ場。CP5→6 で一気にスピードを上げて姿が見えなくなる距離まで先行しました。CP6→7 のテクニカルなくだりでも更に突き放したいところでしたが、チームメンバー滝川がスリッピーな斜面で捻挫し、ロードはスキップで進む程の厳しい状態に。リタイアという選択肢も頭によぎりましたが、痛みに顔を歪めながらも優勝したいという思いを前面に押し出し走る滝川に感化され、励ましあいながらレースを続行しました。CP7 で荷物を預けた滝川は、隠された装備を 5 秒で即答。あまりの即答に係の方も反応しきれず、滝川が「笛です!」と連呼していました。

MTB になってからは追われる立場となり、痛みや焦りで地図読みが危うくなる場面もありましたが、稲毛の良く通る声でプランを共有しつつ、順調に CP を取っていきました。しかし、さすがに分が悪く徐々に差を詰められ、CP11 では僅か 1~2 分の差となっていました。そして、カヤックでは指示書の川上・川下書き間違えにより teamEastWind と一緒に 30 分以上の痛恨のロスタイム。それ以外の部分でのミスはほぼなく日が高いうちにフィニッシュまで走りぬくことが出来ました。

メンバーそれぞれ得意な区間が異なり、ランの登りとナビ区間は結城、MTB は滝川、ランの下りは稲毛が先行しペースを作るという、お互いがお互いを引っ張りあう走り、チームならではの良いレースができたと思います。

最後に、このような状況下でも大会を開催して下さったエクストレモ様、各ポイントで応援しつつチェックして下さった運営者の方々、楽しいチームチャレンジを用意して下さった地元の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

<感想>

結城 克哉さん

CP9のチームチャレンジ・舗装道の修復は、地域に貢献している実感を得られつつ初めての作業で非常に面白かったです。

全体を通して、怪我とカヤック問題を除けば、楽しいレースでした。運営、ありがとうございました。

そして、このレースへのお誘い、および装備を全て整えていただいたスパモニ探検隊、特に隊長の鈴木篤さんに感謝しています。

稲毛 日菜子さん

今回のレースの最大の楽しみは、水セクションへの初挑戦でした。11月はオリエンテーリングの全日本大会シーズンで、初めての水上練習はレース4日前。全く思い通りに進めないことが逆に面白く、夜の多摩川で必死にコツを探しました。レース当日朝の直前までご指導いただき、本番は左右にブレブレでスピードは遅かったものの、カヤックと一体となり水面を滑るように前進する感覚を少しだけ得ることができた気がします。遂に水陸両用への第一歩、水上という新たな世界をまた1つ知ることができました。

個人的には一番の盛り上がりであったカヤックセクションで残念な事件が起きてしまい一時は士気を失いかけてましたが、メンバーの諦めない姿勢と落ち着いた態度に大いに助けられました。チームだったからこそ、今回のレースを楽しみ、優勝を喜ぶことができたと思います。

滝川 真弘さん

実力のあるメンバーでチームを組むことができ、teamEastWindも出場するということが非常に楽しみにしていたレースでした。

想定通り序盤からteamEastWindとのトップ争いになり、仲間の得意なラインオリエンテーリングを確実にこなして御前山の下りで追い抜いたと思いきや捻挫をしてしまいペースダウンを余儀なくされました。

個人のレースなら間違いなくリタイアする痛みでしたが、チームで優勝すると宣言していたのでレースを続行。我慢の走りになりましたが優勝を目指して気持ちは冷めておらず自分の出せる力は発揮して最終的に優勝することができて嬉しかったです。

様々なトラブルがありながらもレースやチームチャレンジを楽しむことができました。

勧誘してくれたスパモニ探検隊隊長の篤さん、一緒に走ってくれた稲毛さん結城さん、カヤック練習に協力してくださった高畑さん、大会開催して頂いた運営の方々に感謝申し上げます。

## ■参加者コメント

G O N G U R I 松本 繰代さん

奥多摩大会は2017年に初めて参加して完全完走できた私にとっては思い出のある大会です。今年はコロナ禍の影響で5月開催が延期になり、11月開催、直前までとても心配していましたがこの様な状況の中、開催でき無事に終わって本当に良かったと思っています。エクストレモのスタッフの皆さん、寒い中ボランティアをしていただいた皆さん、ありがとうございました。

今年もG O N G U R Iで年間エントリーをしていましたが、那珂川大会に参加できなかったのが、奥多摩が今年最初で最後のAR参加ということになり、目標は低いですが最低でも完全完走、できれば明るいうちにと考えていました。

レースは最初のチームチャレンジのクロスワードを丁寧にやりすぎたのか、ほとんどのチームがMTBで出発した後だった様な気がしました。CP1の栃寄のデポまでずっと登りだなぁと思いつつ、昨年の奥多摩の登りよりは距離はないと思いきやとにかく漕ぎました！スタート前の寒さにレインまで着込んでいたけれどすぐに暑くなったので、メンバーを待つ間に長袖は全部脱いで半袖に、晴れ間も出ていて暑かった印象でした。

デポから御前山までのラインオリエンテーリング、CP6までまわりデポに戻ってからの再度CP2への登り返しは、コースクリエイターっていろんなことを考えるなど、ちょっと感心しました！

CP9 チームチャレンジの林道修復、何年か前は畑を耕すなど地域に貢献できるようなチームチャレンジは奥多摩ならではのですね、こういうチームチャレンジは普段やらないことにチャレンジできるので、今後も取り入れていってほしいなと思いました。

夕方の時間帯になってしまったカヤックは待っている間に体が冷えてしまうので、補給をしつつ様子を伺い、2番手で自分がスタートした時にはクルクル回らないように慎重に漕いだ結果、今回はとってもスムーズにクリアでき安心しました！練習不足もあり地図読みの細かいミスもありフィニッシュに戻った時には少し暗くなってしまいましたが、久々の参加で完全完走できたことは本当に嬉しかったです。

また、IceRiverとしてMTBのマップホルダーの販売出店をさせていただきました。FBやInstagramを見た方が実物を見に来てくれたり、ニセコアドベンチャーレースの際に購入したと声をかけてくれた方、ブリーフィング間際に購入して頂いたりなど、たくさんの方に見ていただいて触れていただいて、ご意見等も参考になりました。

来シーズン4戦とも楽しく、たくさんの方々と共に参加できることを期待しています。